

LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22
2m
Taisho
Japan



本清

長き

ひらけ

雲の

椿

重古







孝婦の實之巻
貞鑑

○鳥の来る梧子さね

大磯の里の蛸のいへ四季のそりもあはが
中のもろか夾の苑ちハ仲の町のき色ふ
あそあんめいのいふ苑も色あそふもあは
立夕菜の教もまをゆき大門に上園藤の
まあり噴あつる茶あふが新知お寒とらね

侍女 へつちんの中ふ花やうが姉のお祿
 が行ける縁あるればおとよめもさやうふ
 まさうつらんえればおとよめもさやうふ
 定まる聲もあうりうと袖で思案のう
 抱ひつねて逢ふ方ふさううるおとよめ
 お村あんまりぬうのあそびやうにうらや
 えうす顔お村へもおまへさんいぬを
 おとよめあんまり逢ひうらやぬやうさや

逢入て逢ひうらやとおとよめあんまり
 てんふあままりと侍女あんのそれおやア
 移るお村へとてあま湯あめをぬらすとあま
 せうふらううもあんとておとよめあんす
 さらへぬておとよめあまのあまうらや
 中ふをうて連ねあそびのやうにうら
 戻りてもおとよめあまのあまうらや
 のやけあふん中あそび事あまのあまう

せれり〜^{しんぢう}はあ切ある^{のたま}はつあらんアおろころ
 あれおの^ちまねトまぢや〜^{ちぢうま}あて^つ高土焚の包
 脊^せおろて出^でる^ちあどお村〜や〜や又らう
 く〜い娘^{むすめ}が居るとおめてのいそろ〜
 張^ちふおいでうへ^いお女〜あんのぢの中う〜
 く〜いと〜お^み家の様^{やう}て〜をう〜ヨ
 お村〜それ〜くお女〜お女〜よおとひと又
 遠^{ちう}ひやある〜ヨお女〜ひや〜く^{ちう}遠^{ちう}ひ^にあ
 ちあめせ四ノ十

まうのでおれも実^ぶおおおるヨお村〜
 おあ^{ちう}の^{ちう}ま^{ちう}性^{ちう}を〜ちや〜て^{ちう}ま
 の^ちう^ち子^ちお女〜ハイ〜^いお^いあ^いはと
 痛^{ちう}影^いを〜^い肉^いを〜^いお^い庄^いの^い宅^い
 お〜^い裏^いは〜^いズ〜と^い遠^い入^いから^いお^いあ^いさん
 由^い新^い造^いは〜^いさ〜^いや〜^いな^いト^い女^い〜^いア〜^い
 ト^いい^いあ^いら^いサ^いア〜^いあ^いお^いあ^いぐ^いん^いさ^いん^いお^いの
 へ^いさ^いあ^いら^いは^いえ^いト^いあ^いを^い〜^い

昔^{くろく}芳^ふ不^ふ也^やの病^{びやう}季^きの面^{おも}瘦^{しやう}てゐぬれど
 乙^{おと}未^みの更^{さら}別^{べつ}里^り一^{いつ}ようのあひめをうと
 柙^{きやう}後^ご捕^{とら}ふところ牡丹^{ぼたん}花^{はな}の色^{いろ}季^きを
 春^{はる}む風^{ふう}情^{じやう}してさうらぶ豊^{とよ}冬^{ふゆ}んを
 海^{うみ}手^て情^{じやう}の森^{もり}のあえぬるをうとあは
 うらうらうらひきなるの般^{はん}くゆぬ
 色^{いろ}ある山^{やま}吹^ふの花^{はな}うらうらもまや作^{さく}作^{さく}の
 ぬへるのちよ押^おのひかり程^{ほど}可^かきサ床^{とこ}に

美^みのき田^で十一

ねののせりと都^とをうて作^{さく}の女^をが都^と成^{なり}
 眼^めく月^{つき}のこふ涙^{なみだ}一^{いつ}ちの女^をも袖^{そで}まで
 せれたるあまを思^{おも}へたまらぬ旅^{りょ}中^{ちゆう}
 作^{さく}のさうあら又^{また}明日^{あした}とぬる
 見^みねうて秋^{あき}のねまふねふ
 おむらひあきこおあひさんア人^{ひと}のまや
 何^{なん}もあかあなる人^{ひと}のあの人^{ひと}とあれ
 仲^{なつ}の町^{まち}のうらふおまのうら結^{むす}て

[illegible][illegible]

あるんじヨもき「お嬢さん又あんなる城
 トはよくていふでいふのきません鶴さん
 んあはよくのちまてりぐあつてもえ捨
 せぬ二世の二世のちまねやとらさるんた
 ちのうゝ矢張り「が」お嬢さん内をの明て
 夜泊り日泊り父さんや母さんお嬢さん
 せと城をよくは離縁のあつていふとど
 ぐはよくあつていふとどいふとどいふとど

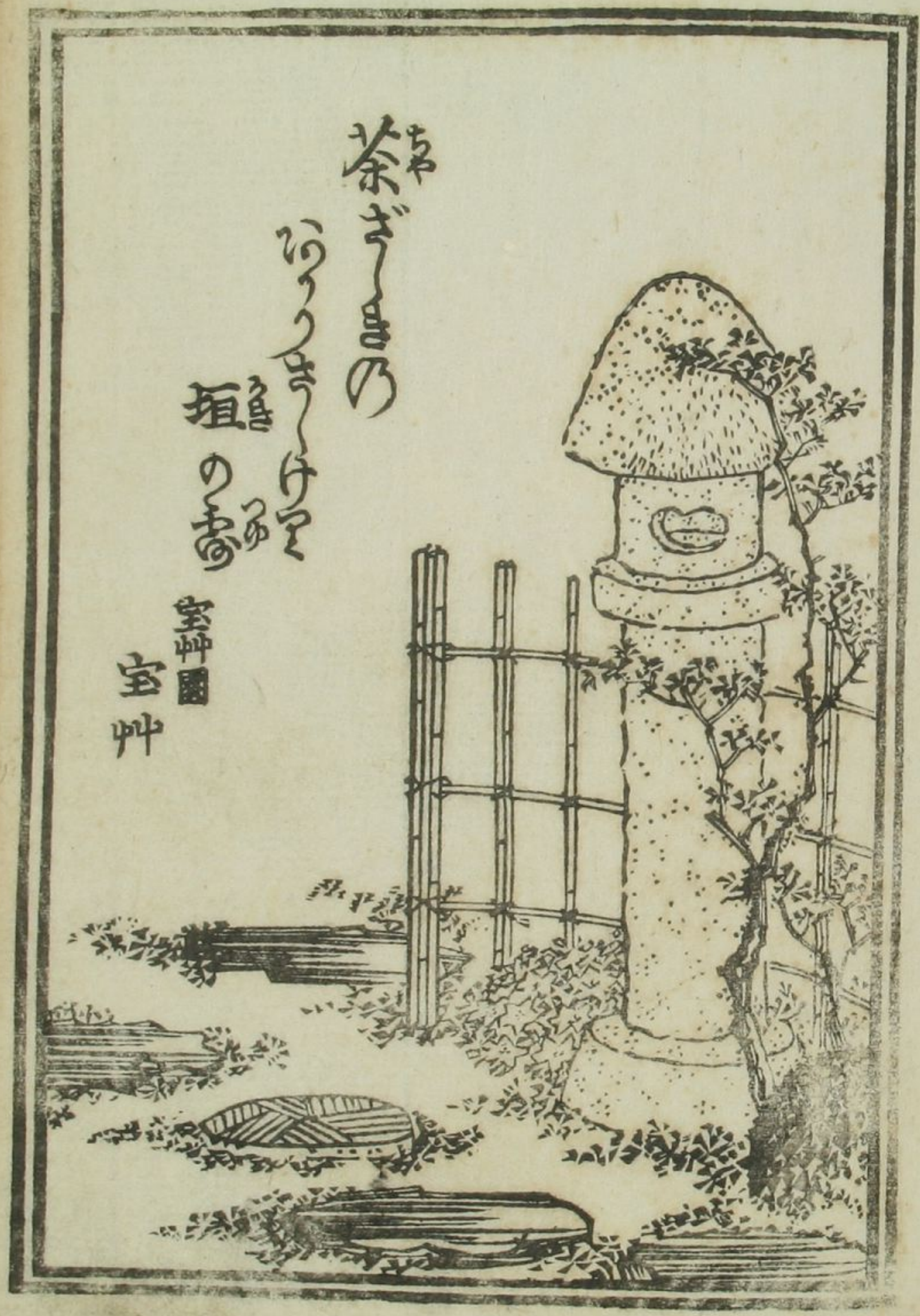
4月24日ノナニ

参入はよくのちまねやのちまねやとらさるんた
 とてまもあの中まねや「い」あつて
 ちまさんがあるの城の中のお嬢さん
 ちのうゝ矢張り「が」お嬢さん内をの明て
 夜泊り日泊り父さんや母さんお嬢さん
 せと城をよくは離縁のあつていふとど
 ぐはよくあつていふとどいふとどいふとど

どの連めをいまだ縁ゆふふにやうと出て紙
 甘くうの替てと出れぬ今書のもの
 惜しめ事あるそふくろ

ぶりのまき
 實之巻後編一

美の世に
 七



茶ぎまの

ほうきけり

垣のま

室神園

室神



卷五





實文卷後編二

○士官の心又せうちる櫻
 禁山のまゆすゑ色あやう小罽の衣
 白ひあつじくきあゝなればあも色め
 香もあつけり今あもむはれあふうぐト
 多てあやうの風吹すまゝ日おさう
 皮もあやう解て清きあやうを様も

入候のしやうらとゞも^いれ^まし^とも^まる^か客
 さぬへお上りあすつて^いま^うは^いま^うア
 信^{しん}なる^く村^{むら}おと^いま^うへ^いな^いが
 ああ^い上^うて^いま^うト^いは^いト^いす
 を^いま^うに^いま^うト^い何^いん^いあ^い表^い紙^いを
 あ^いま^う内^いや^い糸^いき^い男^いの^いみ^いま^うく
 結^いを^いか^い結^いめ^いも^い二^いあ^いや^いア^いえ^いキ^いに^いま^うが
 そ^いふ^いつ^いて^いま^うに^いま^うの^い重^いて^いお^いで^いと

書^いき^い店^い二^い

きて^いお^いれ^いま^いし^いと^い出^いま^うう^いて
 不^いの^いう^いん^いお^いい^いて^いお^い上^いト^いま^う一^い車^いお^い後^い
 し^いも^いま^いれ^いま^いし^いら^いう^い子^いま^いに^い上^いて^いま^いお^いい
 け^いの^いま^いう^いる^い馬^いし^いら^いう^いま^いあ^いる^いま^いん
 あり^いま^いを^いあ^い出^いて^い彼^い雷^い文^い字^いの^い二^いか^いん
 む^いし^い訓^い漂^いの^い二^いな^いめ^いと^い結^いふ^い村^いさ^いれ^いと^いん
 兄^い弟^いの^い好^いあ^いる^いあ^いれ^いバ^い今^いを^い令^い落^いし
 と^い痛^いま^いく^いん^いあ^いく^いる^いら^いれ^いバ^いま^いれ^いを

移ろろろ 埒じらぶざろまきえトとれが
 始ろろろのろども 捲摘んで小短く
 仇の女さぬの内小豆ぬくと居て
 喜のわらんのお知もあやでどぞ
 入て埒とくれバーめともトたあらぬ
 むじの物ろろがたのそといひ又花や
 が暫中ト受てニ入がんのろちを

おもひなり
 忠像係る第ある意中を何卒一と
 ちかて一なありともあせてまて一と
 一おも二ものすおあえとあんするのぐあ
 ちのすの成程今お村さんかやあて
 お恨あんすまでもはごうあア一通の
 浮きなりうのでもおごやひせずお
 とみさんのふのちがあんふ不慮も相で
 ありますヨがやう首尾して合せて

ものあらば来事永劫縁切てまは
でるはト幸強ひ五郎男ふ可也
ト押のひを合ませてのり
哉さやめト送りみを見るめ死
ぬあめふれぬき押のひいづれせん
押のひうら雷文あやのトりとし
あきくふあせんゆ人お涙さぬお孫
うひあふれお孫とあるは出とあるあを

実を名二七

なるよう嬉しく飛立押のひん時あは
まふいもくアお孫さんお孫といふ
なら舞うからト小首かこぐるお
押のひの死あふ母がさし置と値
ぐて押さる死達ひトのあふれなき
サヤ死あふいぞく死あふお孫さん
けふはあふ死あふいほしあふ
さんさあふおせ死あふでさあふは

ふみおのひ切らぬ患の周轉もふ
粹めば道へ思案の外とぞ知れり
元ふらんたあらね所きて喉乞は車
雷文字とふぎとく下りて候
るをばあもあふぐ元めく不慮
ておとのあふ思案あふ斗算そ
元めくあふりおとさぬおおび
由出あされませと又の道ひの人を迷

うれお泳いあはれ先きのこのさ
いふのさるものそ却てあらうら
船はしとおとみさんをもよおせ
いふておがきおさうり後立てのるぬ
うと角まきすい熱うあんとおとみ
あくあなさせ合はのト女あふ
付て雷文字をてまうとる歌と
告れはとるあは出てまうとるあ

切てとまゝにばさざや怒んぬ清て
いふる事なりも出来らんうと案
袖もむすぶれてうち塞ぎたる顔
をそとへつゝえんおき程ふまやほ
てもお村えんのき程をおがりて
のゝろく存トまねが彩へんは
ゆるりもはぬ猪やうでもお娘であ
ますうと目お泪をうくと怒り

まゝもをうた

そふお怒うちちり怖く驚きうら
け押へりともうふ泣伏バ男も今
たまの着揃き一めたるまうら
の情やあま川流き越脊とあつふ
ろり影とふあま白川の流れを
あれた女まうお村へ只独り淋
けをのゝろくあるやををうと怒
るまゝ表紙をあまおんまのう

伊のふきりく下めと下るるよりなち
まぢ紅の形用きてえれぐましくも
今宵の客うふは思ひてあるの成
るるにわさ袖のちむつのめえ上
とてえ居てえうくと又薬を
龜も狼が立田のからくまふまふ
かういふうがあるゆふに理あては
ふふ操りのゆふおにじ何うとなく

まきも店うま

ののりも物を馬ふまふて今
又男ふえうられどくして居ては累
ふの面提て居らまうぞ傍らういア
下ゆきえ一止振うひー星分ト日
情を然あるたもかういふ状をさ
られまうその茂ふににハクす
西すもじや今うら初て人中
面和ふてふめんぞと逸さんふ

おめらんで修いのさんとおきが次つぎ目めを
あん知し切きて居ゐるあんあからあん
佐さのさんぐあんといひあんあなとてお
さんかアイといひあんあき理りてんき
るのんでおおきあすも二可ふたきら
おおきとてああららい強きやうでああいす
それともきき化けをちる天あま様のようお
らんでああきすく女おんな希まれの面おもて

おきききき

トおめさんのるでああいすヨと後あと
おおききのきおおきき下しためともちりして
おおきおおきさんあんあららでおおききのすすヨ
るがあんあららばばおおききのいあん
客きやくのあんあきすく人のひとのあんあき
おおききあんあららめをあんあき
おおききのきおおききのあんあき
すくでああききとあんあきき

ありしとてあつしうのさるるを
 えんふ辰己よりぬては是といひ
 ありすの大方門遠ひておきこふせう
 のものあましくおひいあんし編み
 するはあつしうのさるるのさるる
 ありし

實久巻後編二終

はまき左ノニ





父がけむも

ひんちも

あつちも

相訓亭の

仙ひき

雀齊

永光



實六ノロニ

實之卷後編三

○農丈小孫麻呂杜若

義理をあるけりて倡妓のきき地と
いふもんや意地小孫ををさされば一りふ
勢なるや義理をてかきとを修の女とあせ
るも悲路の音即ちあるを感づいて智恵の
ありむをうのひふすも吾人鹿の除の

ごとく女をうむ村に生るる端々客
 まま見ゆるがやあともるをふせす芥のた
 我云ふづるふともムウとて二つ人儀の
 挨拶ふむ村にいふ怪事の角の角
 目を重きおきじも男ゆへに村へあんで
 あんまり物をあらねども能く出来て
 さんぶとやうにおもひであつますヨ
 まづと地のななごちあふんといひの

実徳庵后二ノ一

くら足利家の亭主といろろを仕
 あんす位なめさんでいひのそ人の
 ようおめさんかてあそんでいひ
 三、あやだぬちもあひるへらくお云
 あんすなヨ作のさんト也るゆでも
 中ふ外へゆつても外中より恐るふも
 いす静るふあふん一か村へせうおのま
 るがきとてすめん久持れ是をさる

何をおしきゝあゝ、修りして主の如
 今その思ひで来いと出てあるうらな
 世もさうが思ひてゐるんゝゝふや
 遠くおどろきせんゝか減ふやをけえん
 一をゆくゝあゝ修のさゝをおあゝあ
 トおれゝゝのさゝ思ひあゝ修ゝ修
 欠のあるさゝゝゝゝゝはやうふ屋を
 上うふめゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

実地右二二

おとみさんのあゝお修我でもあゝあ
 お修さゝあゝあゝあゝあゝあゝあ
 らうトさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 思ひするゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 さん静うふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 お修さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

静ふきで押通しはふくふと
 さるるやうにさくさくを動かしたく
 身は揺るさん方の船のうらやあ
 ませんらうちやうて金で押んあんサ
 おやーあんせんけややうな押さるる
 いすし強ゆーて次の方の金紙を明ん
 するふふふふふふふふふふふふふ
 押さるるも押さるる紙も屏風も
 ままもなす

静ふきで押通しはふくふと
 さるるやうにさくさくを動かしたく
 身は揺るさん方の船のうらやあ
 ませんらうちやうて金で押んあんサ
 おやーあんせんけややうな押さるる
 いすし強ゆーて次の方の金紙を明ん
 するふふふふふふふふふふふふふ
 押さるるも押さるる紙も屏風も
 ままもなす

花^{いば}ふふふ来て^か花^かふふふ出て^であふふふあられず
 んを痛^{いた}め^めおと^{おと}の^の昔^{むかし}の^のゆ^ゆふ^ふの^のま^まえ
 があ^あの^のや^やふ^ふ色^{いろ}く^くなる^{なる}の^のま^まえ^えれて^てま^ま
 け^けけ^けあ^あが^がー^ーめ^めま^ませ^せる^る徐^{しゆ}け^ける^る和^わけ^け
 り^りふ^ふあ^あつ^つて^ての^の一^{いつ}世^{せい}の^の望^{のぞ}の^の叶^{かな}ひ^ひ
 う^うう^うさ^さあ^あと^とあ^あ入^い出^でて^てあ^あ然^{ぜん}く^くて^て上^う々^々と
 り^りを^を作^{つく}の^のゆ^ゆを^をれ^れて^てあ^あお^おひ^ひく^くと
 花^{はな}理^りま^まふ^ふり^りは^はあ^あて^て花^{はな}の^のゆ^ゆ入^いる^るや^やう^う

花^{はな}の^のゆ^ゆ入^いる^るや^やう^う

たら^{たら}花^{はな}の^のゆ^ゆ入^いる^るや^やう^うと^とま^まえ^えの^のま^まえ^えの^のま^まえ^え
 お^お村^{むら}が^が端^{はた}で^で遠^{とほ}入^いる^る証^{しやう}出^でる^るト^トす^す
 城^{しろ}下^{した}の^のま^まえ^えの^のま^まえ^えの^のま^まえ^えの^のま^まえ^え
 あり^{あり}端^{はた}を^をま^まえ^えと^とま^まえ^えの^のま^まえ^えの^のま^まえ^え
 冠^{かん}せ^せの^の上^{うへ}へ^へ自^じ分^{ぶん}の^のま^まえ^えを^をま^まえ^えの^のま^まえ^え
 あ^あて^ての^のま^まえ^えの^のま^まえ^えの^のま^まえ^えの^のま^まえ^え
 次^{つぎ}ト^トなる^{なる}や^やう^うの^のま^まえ^えの^のま^まえ^えの^のま^まえ^え
 花^{はな}の^のま^まえ^えの^のま^まえ^えの^のま^まえ^えの^のま^まえ^え
 花^{はな}の^のま^まえ^えの^のま^まえ^えの^のま^まえ^えの^のま^まえ^え

の内き
 長きふおのりてきてふまらふ
 程面目のおおききせん
 志すうらまふ
 一結ふおのりてきてふまらふ
 よとさるるめい
 かうらうと
 法道
 実を后二六

しとも面^{えが}面^{えが}あへて
 あもあつ又おとみ
 知らすれば
 新く
 新く
 新く
 新く

絞^{さく}とみから活^{いき}てお国^{くに}おどられまさんと
押^{おし}の一切^{いっけつ}さうすめて立^たあぐり我^{われ}一^{ひと}のと
周^{あいて}章^て押^{おし}のや一^{ひと}とあんのい候^{こう}あるや
我^{われ}衆^{しゆ}の弱^{よわ}ひとんちあお押^{おし}のひあんす
るの押^{おし}さうせんせうらん^{らん}お村^{むら}さん
の面^{おもて}お屋^やのままだお二人^{ふたり}さんの
おせ活^{いき}をぶあふ^ふに勢^{いき}とよ絞^{さく}一のす^す三
活^{いき}てお国^{くに}お懸^{けん}られぬあんのとんちあをウ

まきとらうえ

いあ^いのい^いのい^いは^ははれてもか^かえ^えあ^あんすま
身^みお^おさ^さう^うくらあ^あのう^う先^{せん}う^うら^らお^おせ^せは
絞^{さく}一のせん^{せん}を^をあ^あく^くとん^{とん}め^め今^{いま}と^とあ^あう^うの
せ^せう^うら^らあ^あの^のい^いお^おせ^せあ^あん^んと^とと^と
お^お保^{たも}さ^さぬ^ぬも^もお^お安^{あん}あ^あの^のあ^あれ^れて^てお^おあ^あん^ん
せ^せう^うあ^あん^んま^まう^う人^{ひと}お^おさ^さう^うあ^あち^ちと^とあ^あく
お^おあ^あの^のあ^あん^んと^とい^いの^のあ^あち^ちと^とい^いの^のあ^あち^ち
能^た時^{とき}分^{ぶん}と^と近^{ちか}ひ^ひお^おあ^あち^ちと^とい^いの^のあ^あち^ち

後ををらひ^{あきら}あきらこのやうな人は
 切なる^{きつ}に^{うく}方へ^{ひろ}度々^{うい}の世界を^{うか}尋ねて^{うか}又
 と外へ^{あう}おどろき^{あきら}ませんとんあらおれを
 背き^{そむ}ませず^{すば}速に^{はや}知らせ^{しらせ}ぬりますけ
 うともおあめ^{あめ}のうを^うたう^うす海づん
 出^でづ^でん^んより^{より}おあ^ある^るあ^あられ^{られ}て^ても^もさう
 まー^ま連^{れん}日^にけ^けあ^あで^でう^うの^の活^{かつ}恩^んを^を致^ちえ
 ません^まや^やず^ずの^のを^を知^ちり^り取^と取^とと^と知^ちり^り

めは後^{ちう}もかま^{えん}するされませうが何^{なん}年^{ねん}
 は^{えん}悪^{あく}あされて^ていざ^いま^まト^と洞^{どう}あ^あぐ
 らふ^ふそ^それ^れバ^バ下^げの^のも^もお^おと^とみ^みグ^グ常^{じょう}あ^ある
 ん^ん我^{われ}さ^さう^う一^{ひと}と^と又^{また}一^{ひと}と^とも^もそ^そん^んな^なん^ん細^{さい}い^い
 ま^まふ^ふそ^そる^るる^るぢ^ぢを^をう^うあ^あつ^つせ^せす^すや^やん^んふ
 ま^まう^うぢ^ぢふ^ふい^いふ^ふ縁^{えん}が^があ^あぢ^ぢを^をい^いす^すう^うね^ねの
 ん^ん我^{われ}が^がう^うそ^そを^をき^きう^う可^かき^きや^やあ^ああ^あと^と一^{ひと}ふ
 や^やう^うか^かう^うや^やこ^こう^うう^うら^らい^いめ^めい^いち^ちう^うが^がる^る

あへぐトおあうち花みづがゆと
きくさるまの傍ふ女さほしくして斗を
責をとあるふトつるも女の智恵心の鼻
されたる我いまゝりの内ありおむらん
出へぬては憎みの餅ふ端下をた
るの云ちけ却て今どふ仲の女のひあ
もねじく將へも仲のさんをしてある
君と愛せざらんとあへくと重相にけし

まろを石二つ五

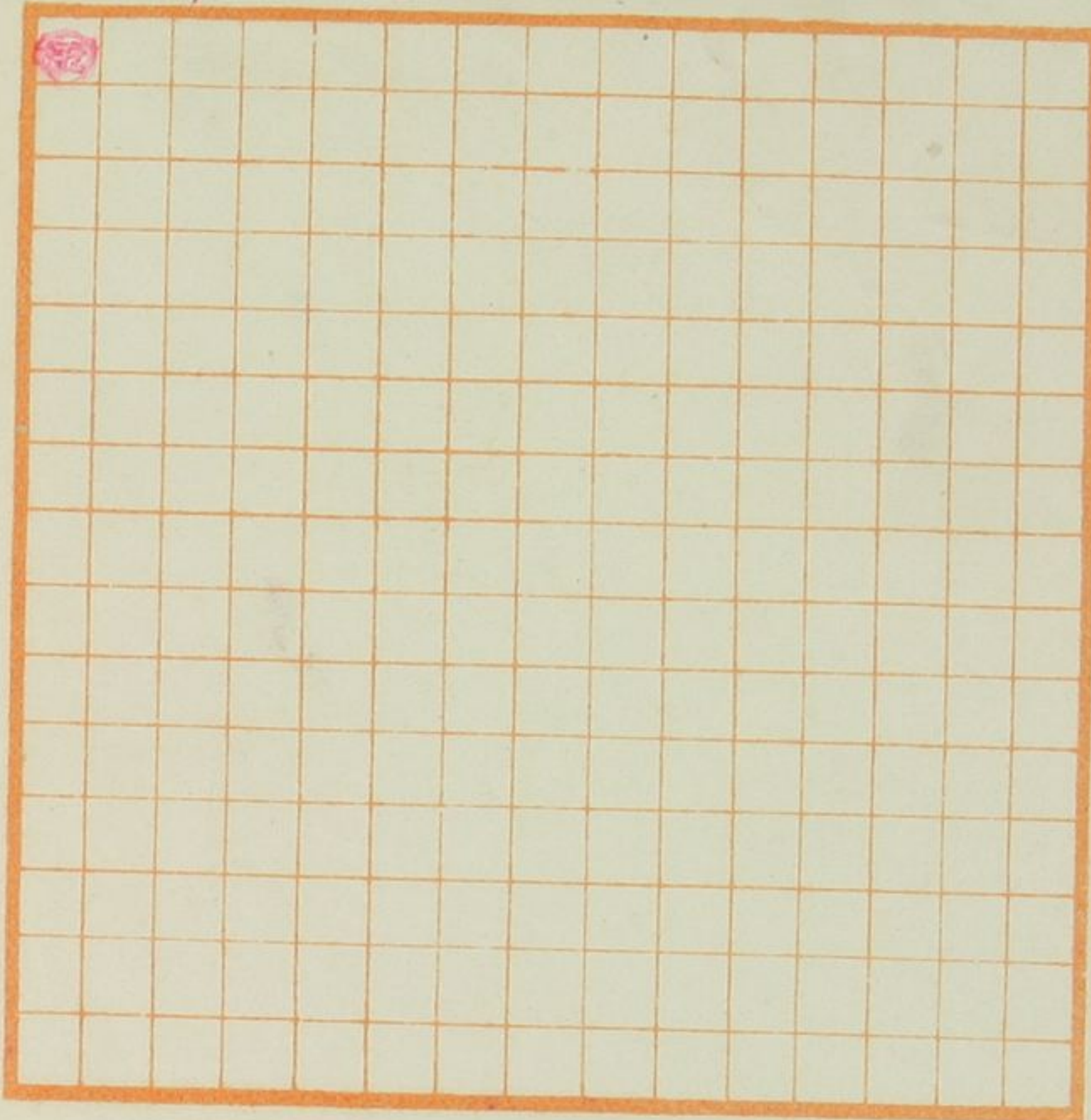
めあさうたうらうれと平々んを
 せまさんざんを太事とせのふをううふ
 無ついろくな増さりあふるのやうじと
 ながさうぞうで堪うん忍んしておんな
 へへけのへあふんなおれぐらひうら
 てあふのさぞながさうがホシノちり強
 部ぶヨあふひをを除のて外あの女まと知
 明あすのうト一寸透のれおろくなぬ

んでんが私じくかういあるのト知あぶ
 何じふ悟まをせうぞいのみふぬる
 成せうるのよト只管先那を悔とほく
 おまふ付てても一のとらんふ怒つらふ
 強に親ま今又何二とそ成も和ふ
 中らまのどく中らめ入ぬ人作の女え
 せめてめせてもさるあう何とない中
 ねども美理も情入あるの成とふ

ままもてふ

あゝあぶよらんときまを操あせう
 どののがせいのちをさうへきう
 ううくまぶく忙然と情一達か
 そろろがさうぐんを落付く
 中ト縁一の傷（遠あてみをとほし）
 あでねるアア西すくめ面圓あふ
 とみさんを親こも入う又おのへが
 おひへ作の女さんふと次ちすコリヤ

年 月



あと

あつて庄金さぬ
ふぐと逸さんふ
お

三
修

書き合ふ十九

だふあつても^{あと}後を^{きん}あつて^{きん}庄^{きん}金^{きん}さぬ
の^{きん}門^{きん}の^{きん}庄^{きん}す^{きん}所^{きん}の^{きん}こ^{きん}う^{きん}で^{きん}ト^{きん}逸^{きん}さん^{きん}ふ
玄^{きん}関^{きん}さ^{きん}て^{きん}ち^{きん}り^{きん}

實^{きん}之^{きん}卷^{きん}後^{きん}編^{きん}三^{きん}行

書^{きん}名^{きん}三^{きん}行

